



郵便配達夫シュヴァル(1836～1924)の理想宮の歴史

1879年4月のある日、農村地帯の郵便配達員の帰り道、43歳のフェルディナン・シュヴァルは奇妙な形の石につまづきました。そしてふと、それまで忘れていた「おとぎの国の宮殿」の空想を思い出しました。

これをきっかけに、彼は33年の歳月をかけて、日夜、もとは菜園だった場所を、執念の末にひとつの建造物を作り上げることになります。毎日の郵便配達で目にする光景、郵便物として配達する写真入り雑誌や、1890年当時出始めだった絵葉書などにインスピレーションを得て、この世界でもユニークな宮殿を建設したのです。

ある時は人々の嘲笑の的となり、ある時は批判されつつ、33年間、延べ1万日、9万3千時間を費やしてできあがった理想宮に、彼は「たったひとりの労作」と記しています。76歳の時に宮殿を完成させ、その後さらに8年間を費やしてオートヴィルの村の共同墓

地に、これまた同様に風変わりな墓を建造しました。彼は88歳で亡くなり、そこに埋葬されています。彼は亡くなる前に、この宮殿をたった一人で作り上げたのだという事実を、「真実かつ正真正銘である」と、第三者を介して証明しています。

あらゆる芸術的な流派から独立し、いかなる建築様式にも属さないこの理想宮は、今日、「生の芸術」の代表作として評価されています。アンドレ・マルローがこの宮殿の価値を認め、理想宮は、ナイーヴ・アートのひとつとして、1969年に歴史的建造物に登録されました。フェルディナン・シュヴァルは、アンドレ・ブルトン、パブロ・ピカソ、ティンゲリー、マックス・エルンスト、ニキ・ド・サンファルなど、数多くの芸術家の賛辞を受け、彼らのインスピレーションの源となったのです。

《夕べから夜にかけて
人々が休息をとるとき
私は理想宮を作り上げた
私の苦勞を、誰が知り得ようか》

博物館の展示コーナー

郵便配達夫シュヴァルの生い立ち

フェルディナン・シュヴァル(Ferdinand Cheval)は、1836年、オートリーヴ近郊のシャルムという小さな村で生まれました。農村の貧しい家庭に生まれ、父親とともに村をでて働きに行きます。パン屋の徒弟として働いたり、その他いろいろな仕事に就きますが、31歳の時にオートリーヴの郵便配達夫となりました。そしてこの郵便配達夫としての仕事を、60歳の定年まで続けたのです。若く美しい最初の妻、ロザリー・ルヴォルとの間に二人の男の子が生まれますが長男は幼くして亡くなりました。その後、妻ロザリーも亡くなってしまいます。数年後、クレール・フィロメヌ・リショーと再婚します。二人の間にアリスが誕生しますが、15歳で他界。ジョゼフ・フェルディナン・シュヴァルはこの死を悔やみ、家族の墓に「哀惜のアリスへ」という言葉を残しています。

理想宮の建設

どのようにして郵便配達夫シュヴァルの空想の城塞が生まれたのでしょうか？毎日徒歩で40kmという郵便配達の仕事をつうじ、この夢が現実のものになっていきました。図面、材料、建設の方法、インスピレーションの源、作業中のジョセフ・フェルディナンド・シュヴァルを撮った数少ない写真が残されています。

苦勞から評価へ

苦難の日々を経て、やがて人々が好奇心の目でみるようになり、ついに彼の仕事が評価されるにいたったのです。1905年、初めて理想宮を見学したいという人が郵便配達夫シュヴァルの前に現れました。シュヴァル自ら訪問者を迎え、案内しました。死後まもない1930年代、芸術家たちはこの世界でもユニークな作品を発見し、総合的な芸術作品として評価しました。

アーティストたちの賛辞

アンドレ・ブルトン、マックス・エルンスト、デニーズ・ベロン、パブロ・ピカソ、ジャック・ブルニウス、ガストン・バシュラール、ブラッサイ、ドロテア、ロベール・ドアノー、ウィリー・ロニス、ニキ・ド・サンファル、ジャン・ティンゲリー、フランソワーズ・マレ・ジョリ、エチエンヌ・マルタン、エロ、スーザン・ソントグ、ジャン・メサジエ、ベルナル・ビュフェ、アンリ・ユゲット、ルイ・ボンヌ、サンフルシュ、エルヴェ・ディ・ローザ、シャルレリー・クチュール、ベルナル・ランシヤック、ベン、ニルス・ウド、ティトゥア・アン・ラマズ、ルイ・プーラン、ベルナル・ブラ...

www.facteurcheval.com
facebook.com/facteur.cheval



理想宮の建設

東側ファサード

理想宮の建設がはじめられたのはこの東側の正面からでした。建設が開始されたのは、ライオンと犬の像が上から見守っている中央の「生命の源」の部分からです。その後、右側の、「聖アメデの洞窟」、「ソクラテス」、「エジプトの神殿」、「世界の建築物」、そして二重の床石を備えた墓(そこが自らの墓となるはずであった)を作り上げました。公衆衛生上の理由から、そこに埋葬されたいという彼の願いは認められませんでした。

ファサードのバランスをとるために、その反対側に、「ヒンズー教の寺院」を建造しました。そこには不思議な動物がまじりあい、窪みの部分には彼の仕事の片腕であった一輪の手押し車があります。その後出来上がるのが「3人の巨人」、つまりシーザー、アルキメデス、ウェルキンゲトリクスです。頂部には、華麗な模様のエキゾチックな「野蠻の塔」を建造します。この全くバロック風でリッチな装飾のファサードを建造するのに、彼は20年を要しました。

南側ファサード

彼は南側ファサードの建設へと移ります。この部分は「ノアの大洪水前の博物館」にあたり、自分が大切にしている石を保存していました。ここには驚くべき「鉱物の樹木」があり、奇妙な鳥や小動物が配置されています。

西側ファサード

西側ファサードは、意図的に普遍的ビジョンを構成しています。ここで郵便配達夫シュヴァルは、すべての文化、すべての宗教のスタイルを共存させ、「アラブのモスク」、「ヒンズー教寺院」、「スイスの山小屋」、「アルジェの四角い家」、「中世の城」などを見ることができます。このファサードは、名前の記された柱によって構成されていますが、人々を旅へといざない、原始時代の彫刻ギャラリーにアクセスできます。

北側ファサード

おそらくこのファサードが最後に仕上げられたのだと思われます。ここでは、彼の芸術は頂点を極め、塑像は非常に豊かで、ファサード全体がリッチなものになっています。アダムとイブが見守る中、ヘビ、シカ、カイマン、ペリカン、カエル、フェニックス、ミノタウロス、その他の奇妙な動物の共存する光景が繰りひろげられます。ここで取り上げられているのは、地獄、天国、人生、死のテーマです。《わたしは夢の中から世界の女王を連れ出した》

テラス

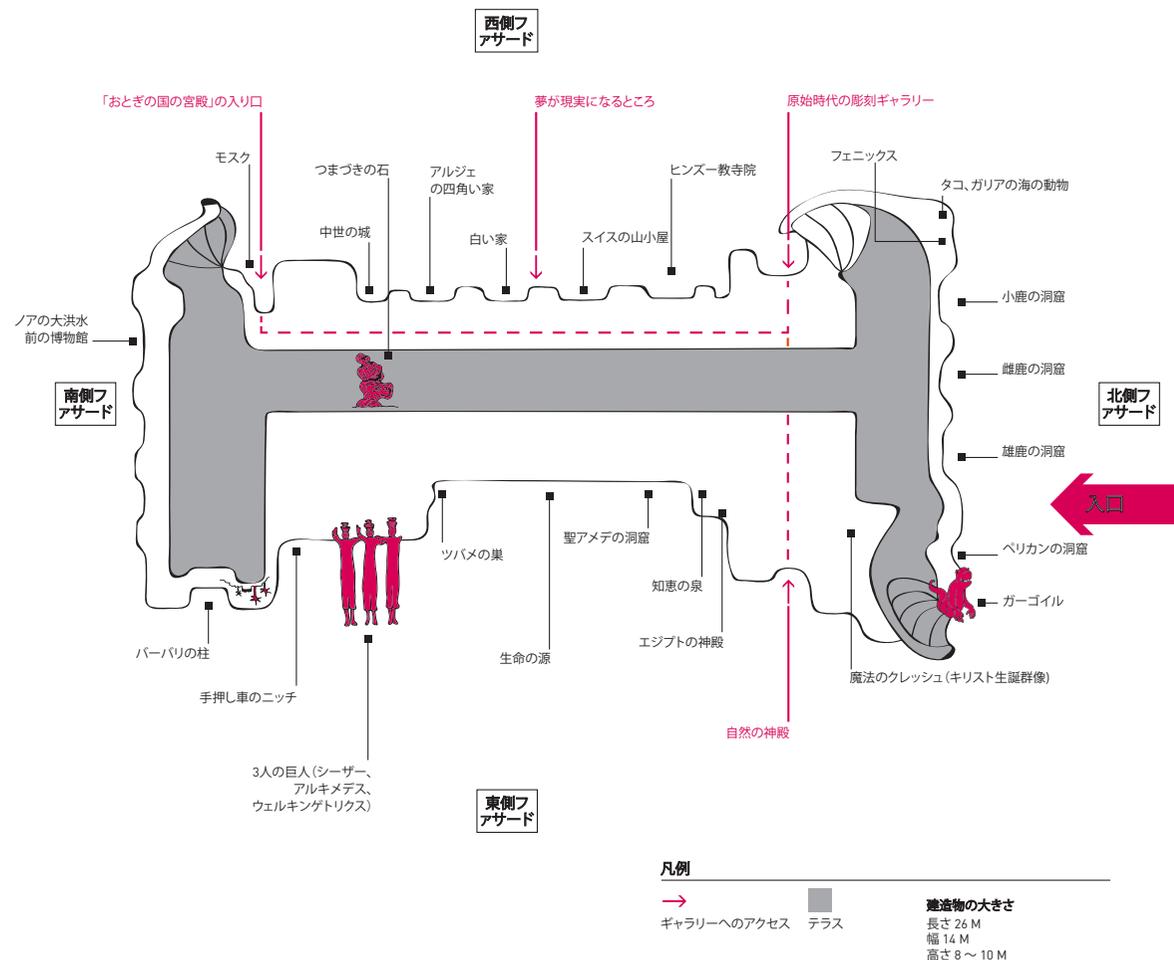
シュヴァルは、理想宮の建造の起源となる石、「つまづきの石」を配置する場所としてここを選びました。この石が、「生命の木」の近くに君臨しています。テラスから、「巡礼者」、「鳥」、「小塔」などの建造物の上部を見渡すことができます。テラスへは3つの階段から上ることができます。

ギャラリー

「おとぎの国の宮殿」の入り口は、貝殻のフリーズ、シャンデリア、夢想的な塑像で飾られ、魅惑的な寓話の印象を与えます。ギャラリーの入り口には、シュヴァルによっていくつかの引用文が彫り込まれています。それは、この作業の辛苦、そして謙遜さ、そして同時に「この岩が、いつか多くのことを物語る日がやってくるであろう」といった偉大さへの夢も語られています。ここには1904年にエミール・ルー・パラサックというグルノーブルの詩人がシュヴァル宛に送った「君の理想、君の宮殿」という詩が刻まれています。この詩がもとになって「理想宮」という名前が与えられたのでした。

1912年に、彼は世界にむけて挑戦的な言葉を残し、仕事を終えました。「1879-1912年、延べ1万日、9万3千時間、33年間の苦難。我よりも一徹な人がいたらこの仕事を始めてみるがよい」

理想宮の図面



子供向けワークショップ

ワークショップ「Touchatou」: 毎週月曜日と火曜日、申し込み要。
contact@facteurcheval.com/04 75 68 81 19

展示

夏季の間、毎年「理想宮」で、郵便配達夫シュヴァルへのオマージュとして、招待アーティストの展示会が開かれます。

コンサート

「巨人たち」の前で、6月から7月にコンサートが開催されます。そのプログラムは、4月から www.facteurcheval.com で入手可能です。

年間を通じてオープン

(ただし12月25日、1月1日、1月15日から1月31日を除く)